

ITを活用した災害に強いまちづくり

2018年2月17日

千葉県 習志野市

本大久保ホームタウン自治会 自主防災会

自治会長・自主防災会副会長 川谷 聡

習志野市 本大久保(もとおおくぼ)



本大久保ホームタウン

● 位置

- 習志野市本大久保4丁目内
- 京成大久保駅の南東

● 地区の誕生

- 大手ハウスメーカーが開発・販売した420棟余りの一戸建て団地
- 1980年(昭和55年)から入居開始
- 低湿地の田畑の埋立地。地盤が安定せず販売開始後不等沈下が発生
- 1991年(平成3年)にようやく自治会が発足
- 地盤問題から自然災害(特に地震や大雨洪水)に対し漠然とした不安

● 初代自主防災組織発足

- 自治会活動が軌道に乗った1998年(平成10年)自治会役員の兼務で自主防災会発足
- 消火器訓練、救急救命訓練、非常食の備蓄など一般的な断片的活動を実施



本大久保ホームタウン

1880(明治13)年～1886(明治19)年



出展: 迅速測図 農業環境技術研究所

地図中の「水」は水田を表す。明治時代
本大久保ホームタウンの土地は水田

1979年(昭和54年)



出展: 国土地理院 地図・航空写真閲覧サービス

本大久保ホームタウンの盛土工事終了
この直後から住戸の建設開始→販売へ

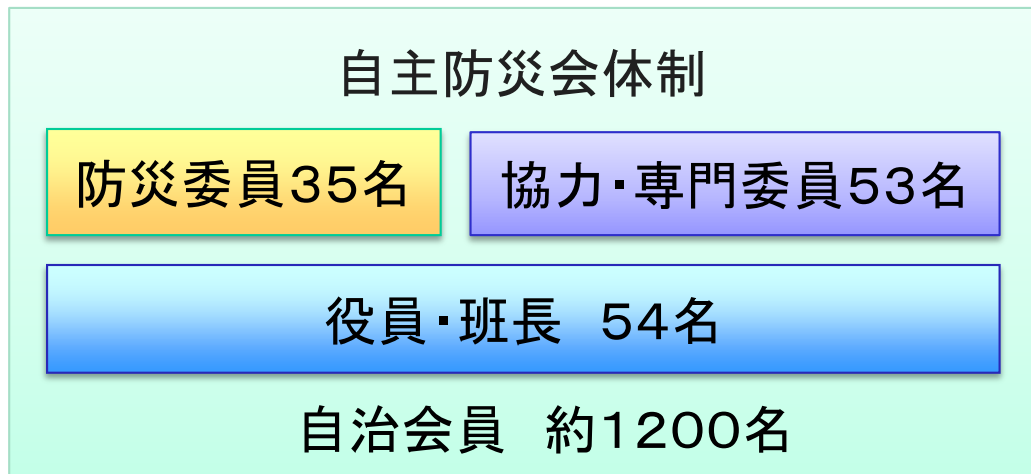
地域住民自身による自助・共助活動の具現化と、より実践的な活動を目指し、2008年(平成20年)自治会役員とは別立ての専任性自主防災会を組織

● 体制の構築

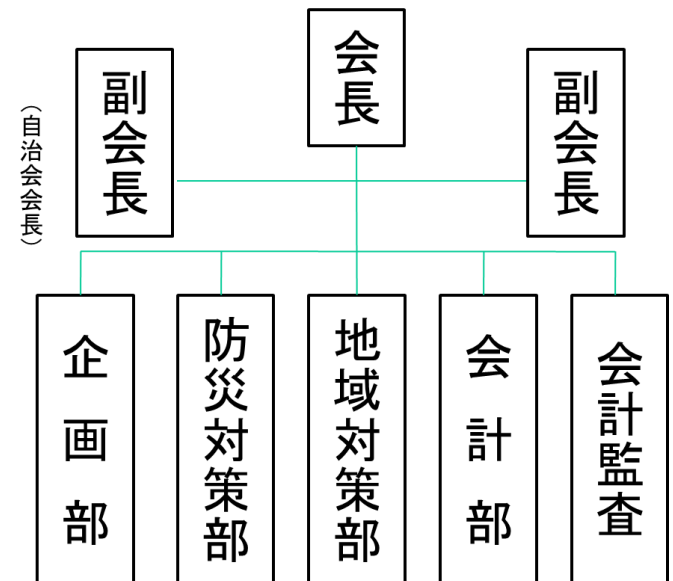
- ・ **防災委員**: 日常的に活動するコアメンバー
 - ・ **協力委員**: 緊急時に出動、女性が70%
 - ・ **専門委員**: 専門的知識・経験を活かして災害時に支援(発足後追加)
- } 毎年公募

● 4つの地域ブロック制を導入

自治会役員、班長を含めた統制が可能



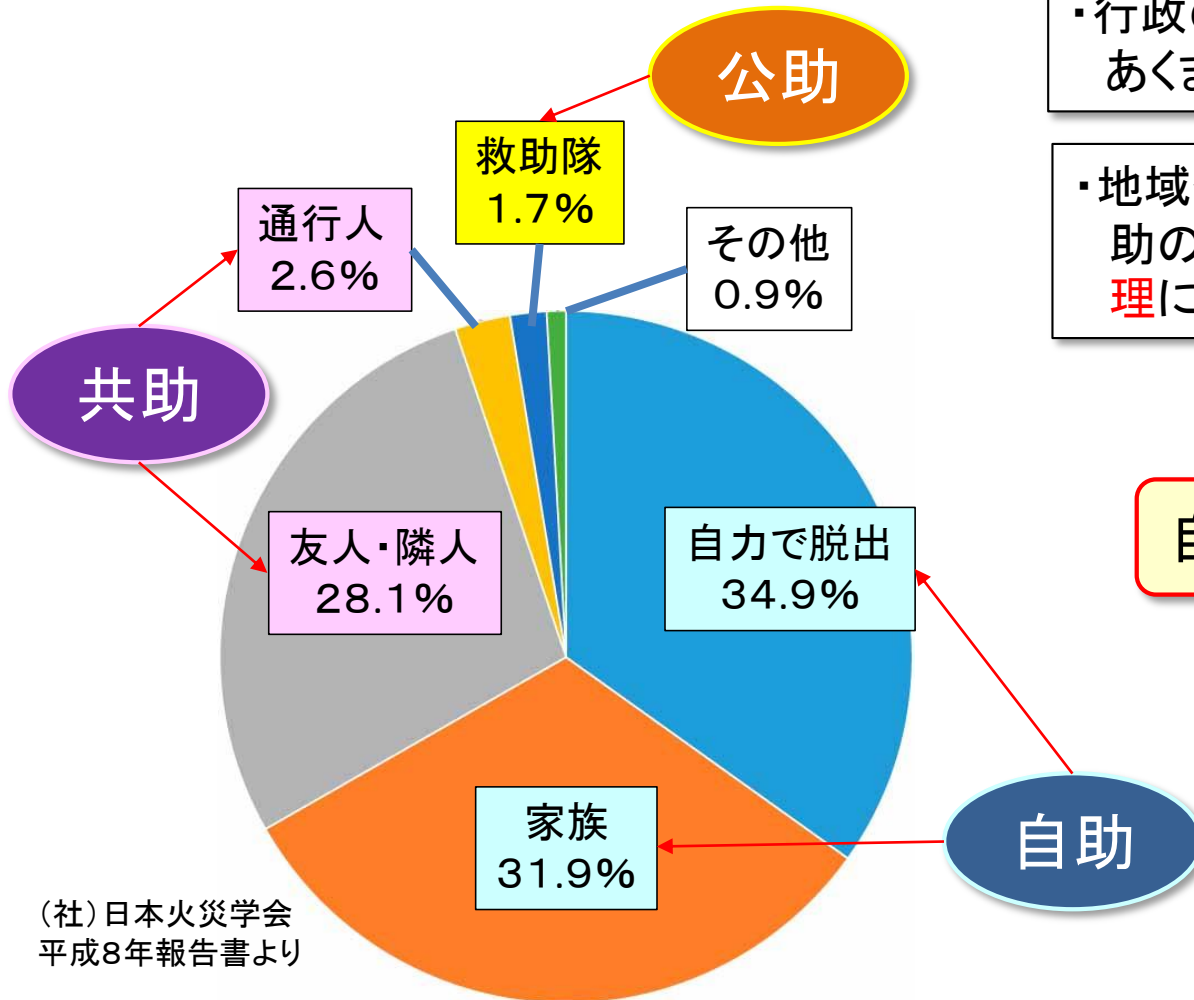
自主防災会は全自治会員により構成



平常時の組織

自主防災組織とは -1

阪神淡路大震災における生き埋め
や閉じ込められた際の救助主体等



(社)日本火災学会
平成8年報告書より

- ・地震発生直後行政がなし得た役割は多くはない
- ・行政の組織が有する人的資源は、あくまでも平時を想定した規模

- ・地域住民による平時からの自助・共助の営みこそが、緊急時の**危機管理**において最大の効果を発揮する



自主防災組織の育成

地域住民による
任意の防災組織

自主防災組織とは -2

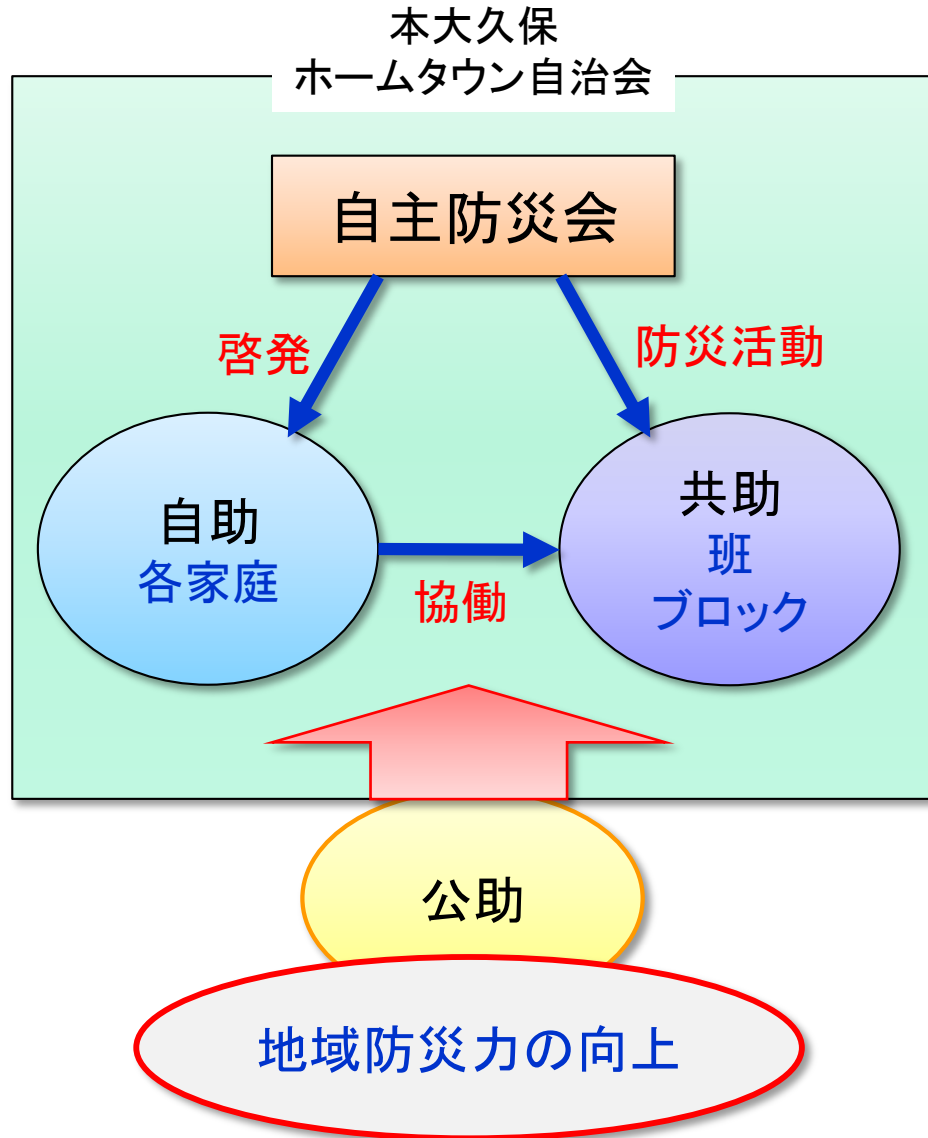
- 地域住民が「自分達の地域は自分達で守る」という意識に基づき自主的に結成し、自発的な防災活動を行っている組織

「住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織」 - 災害対策基本法第2条

- 主に町内会・自治会の規模で設置・運営されており、組織の隊員はその地域に住んでいる住民:平成28年4月現在16万団体、4千5百万人以上

- 大規模災害時に行政機関による救助(公助)が困難な場合、自主防災組織による自助・共助が非常に重要である

(消防庁資料より)



防災センターの設置(災害時)

● 緊急時には防災センターを設置

- 自治会内で最も強固な基礎構造を持つコミュニティーハウス(自治会館内)に設置
- 発電機、情報機器、予備照明等を設備

● 緊急防災センターの役割

- 全体の指揮、情報収集と発信
- ブロック支援
- 市の地区対策支部窓口
- 避難所設営・運営対応
- 要配慮者対応⇒医療救護所対応

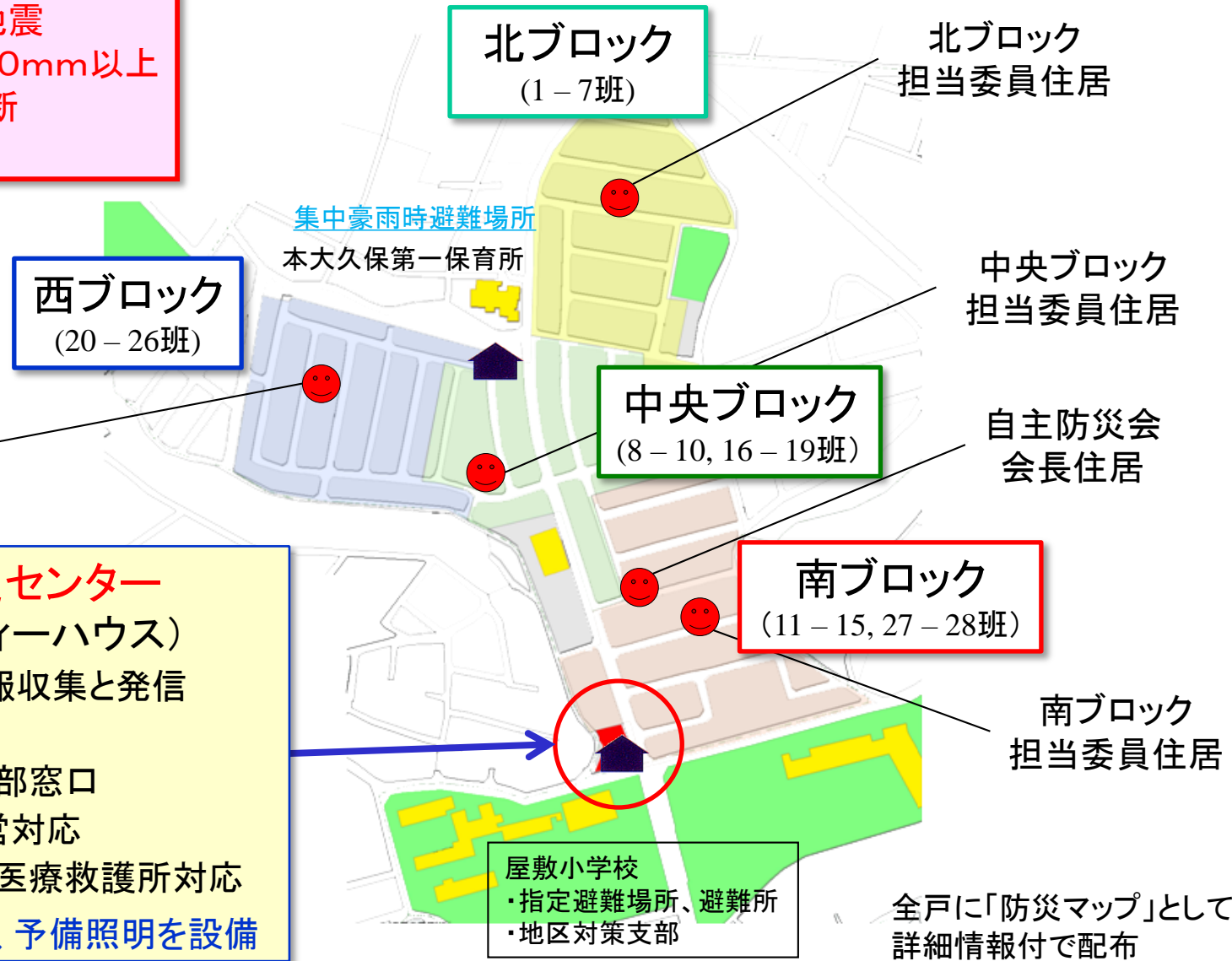


4つの地域ブロックで情報収集を組織化

津波時避難場所
大久保東小学校

- ・震度5強以上の地震
- ・時間当たり雨量50mm以上
- ・防災会会長の判断で緊急招集

- 緊急防災センター**
(コミュニティーハウス)
 - ・全体の指揮、情報収集と発信
 - ・ブロック支援
 - ・市の地区対策支部窓口
 - ・避難所設営・運営対応
 - ・要配慮者対応⇒医療救護所対応
- 発電機、情報機器、予備照明を設備



全戸に「防災マップ」として
詳細情報付で配布

● 簡易無線機・ITの活用

- ・ 防災センター、4つの地域ブロック、防災委員を正確・迅速に情報通信でつなぐ

● ITの活用で情報収集と指示(防災委員向け)

- ・ 防災委員間の緊急メールリングリストを整備
 - ・ 災害時に防災会会長が「緊急招集」メールを発信、担当別に配置に就く
 - ・ 防災委員の配置状況確認と情報交換
- ・ 簡易無線機(トランシーバー)を6台配置、災害時の通信確保の要に
 - ・ 地域ブロック担当4台、防災センター1台、スクーター担当1台

➡ 被災状況の早期把握と早期支援の指示ができる体制を構築



コミュニティハウス(自治会館)内「緊急防災センター」の様子:2013年度習志野市総合防災訓練(9月1日)

● 『防災ネット』の提供

- ・ インターネットの掲示板機能を活用して下記機能を提供

1. 緊急防災センター(コミュニティーハウス内)で収集した本大久保ホームタウン内の災害情報を携帯電話/スマホで閲覧

- 例) ・ ○時○分:緊急防災センター設置
・ ○時○分:○班付近で火災発生
・ ○時○分:特に大きな被害なし。余震の可能性あり、一部住民は、屋敷小学校に避難しています。

2. 携帯電話各社の「災害用伝言板」へのアクセス(入口)

3. 緊急防災センターへ連絡の為の緊急メール「助けて！メール」の利用

- 例) ・ ○班△ △(氏名) 家屋傾斜、外に出られない。
・ ○班△ △(氏名) 家族が家具の下敷きに。 応援頼む！

①

本大久保ホームタウン 緊急防災情報

緊急情報3

[2017/09/01 11:23:31]

- ○班付近にて火災発生。協力して初期消火にあたっています。
- ○班△ △宅でけが人。医療経験者の方の応援をお願いします。

緊急情報2

[2017/09/01 10:23:31]

- ホームタウン内停電の様様
- 交通機関ストップの様様

緊急情報1

[2017/09/01 10:13:56]

習志野市震度6弱の地震発生。ホームタウン緊急防災センターを設置しました。

防災ネット

<ホームタウン防災情報>

- ①緊急防災情報
- ②災害用伝言版
- ③助けて！メール
- ④通常掲示板

(c)本大久保ホームタウン自主防災会



防災ネットを使用した時の携帯電話
／スマートフォンの画面イメージ

- 緊急防災センターで書き込まれた情報を閲覧(閲覧のみ)
- 住民が近所で何が起こっていて、どう行動すべきかを知る

②

災害用伝言版

- ①ドコモ
- ②au
- ③ソフトバンク
- ④ワイモバイル

(c)本大久保ホームタウン自主防災会

- 携帯電話各社が災害時に設置する「災害用伝言版」への入り口
- 安否確認は全国規模で必要なので、携帯電話会社が提供する機能を利用

防災ネット

<ホームタウン防災情報>

- ①緊急防災情報
- ②災害用伝言版
- ③助けて！メール
- ④通常掲示板

(c)本大久保ホームタウン自主防災会

③

宛先:(自動設定)
題名:緊急防災メール
本文:
【名前】川谷
【場所】3 班
【状況】足が家具の下敷きになって動けない。助けて！

- 住民から緊急防災センター宛ての緊急用ヘルプEメール
- 通常時は機能しない

● 防災委員向け訓練

- 簡易無線機を月次定例自主防災会時、防災センターとブロック担当が交信訓練
- 防災訓練時、緊急メーリングリストで防災委員を招集・交信

● 防災IT講習会の実施

- 自治会員を対象に、毎年「防災IT講習会」を実施
 - 携帯電話/スマートフォン持参の実践的講習会
 - 自治会「防災ネット」や安否確認方法の具体的利用演習



簡易無線機でブロック情報をセンターへ通知



防災講習会の様子

- 自治会員に向けた「防災IT講習会」の案内チラシ(全戸配布)



- 一般の「防災講習会」も別途開催

- ・ホームタウンの自主防災体制について
- ・自然災害への備え
- ・地震と住宅:プレハブ住宅の耐震性と地盤の知識

2015年1月15日

本大久保ホームタウン自治会

自主防災会・ITクラブ

防災IT講習会

- 「ホームタウン防災ネット」の使い方
- 災害時の情報収集と安否確認方法

日時:1月31日(土) 13:30~15:30

場所:本大久保ホームタウン・コミュニティハウス

内容:

1. 自主防災会の役割とIT活用
2. 自主防災会運営「ホームタウン防災ネット」の使い方
3. 災害時の通信は? 携帯メールはつながる?
4. 電話会社が災害時に設置する「安否確認」方法の説明
・災害用伝言ダイヤル171 ・災害用伝言板
5. 緊急地震速報・防災情報の活用

災害直後の電話は意外につながる

被災後すぐに被災者側からキーとなる
家族・親戚・知人へ安否を電話連絡



情報あれば
ひとまず安心

電話がつながりにくくなったら

1) 電話がつながらなくても、携帯電話の
メール・インターネットはつながりやすい

メールで被災者から家族・親戚・知人へ連絡
日頃からメールの家族間利用を

2) 電話会社が運用する「災害用伝言
ダイヤル171」へ安否を吹き込む



電話がつながりにくい状況でも、優先的につ
ながる。音声を30秒間吹き込める

3) 携帯電話会社が運用する「災害用
伝言板」へ安否を書き込む



電話がつながらないときでも、つながりやす
い。100文字書けるので正確に伝わる

安否を伝え合う、
声の伝言場所

災害用伝言ダイ
ヤル171とは



- 音声30秒を録音
- 保存は48時間
- 録音は10件まで
- 携帯電話で操作する場合でも、識別番号は固定電話番号

識別は電話番号(例:0474935006)
被災地内の電話番号でしか録音できない

私が被災地に居るとき

手順1	“171” をダイヤル (以下、ガイダンスに沿って操作)
手順2	“1” (録音) を入力
手順3	自宅の電話番号を入力 “0474935006”
手順4	“1” (録音開始) を入力
手順5	伝言を吹き込む (30秒以内)
手順6	“9” (録音終了) を入力
	終了

ここを“2”とすると
伝言を聞くことができる

A夫です。家は一部壊れましたが怪我なく元気です。B子も元気です。家の中で生活できそうです



安否を伝え合う、
携帯ネットの伝言版

識別は携帯電話番号(例:09012345678)
被災地内に居ないと入力(登録)できない

● 阪神淡路大震災後に整備

- 安否確認に困難を極め、電話は5日間通話困難状態
- 公衆電話に長蛇の列ができた教訓から整備
- 東日本大震災では一定の利用があった

● 文字で伝えるので正確に伝わる

- 電話が繋がらない時でも、つながりやすい
- 100文字まで書けるので、正確に伝わる
- 携帯電話(インターネット契約必要)とスマートフォンで利用可能

● 171か、災害用伝言板か

- どちらを主体で使うのか、家族内で決めておくが良い

● 文字を100字記録

● 保存は72時間

● 記録は10件まで

● 携帯電話で入力する場合、電話番号入力不要

スマホは、災害時に役立つ機能が満載。しかも充電電池で動く

1. 電話ができる
2. メールができる
3. 自治会防災ネットが使える
「緊急防災情報」「災害用伝言板入口」「助けて！メール」
4. ラジオが聞ける
5. ニュースが読める。新聞も読める(有料)
6. 簡易懐中電灯になる
7. 緊急地震速報が受信でき、地震情報が正確にわかる
8. 地図が見られる。避難マップもある
9. カメラ・動画で被災情報を記録・送付できる
10. 便利なアプリがいっぱい
「一般防災情報」「交通情報」「Twitter」「Line」. . . .

- 専任防災委員(35名)をコア人材に
 - 外部講習会への参加、外部視察、災害図上演習などを実施
- 協力・専門委員(53名)の現場対応力強化
 - 女性が多いので救援・救護訓練、備蓄食品利用訓練などを実施
- 全戸に「安否確認プレート」を配布
 - 災害時に安全を確認できた住戸は、これを門扉に掲示
 - ブロック担当の指示で班長等が全戸を確認し、短時間で防災センターに情報集約



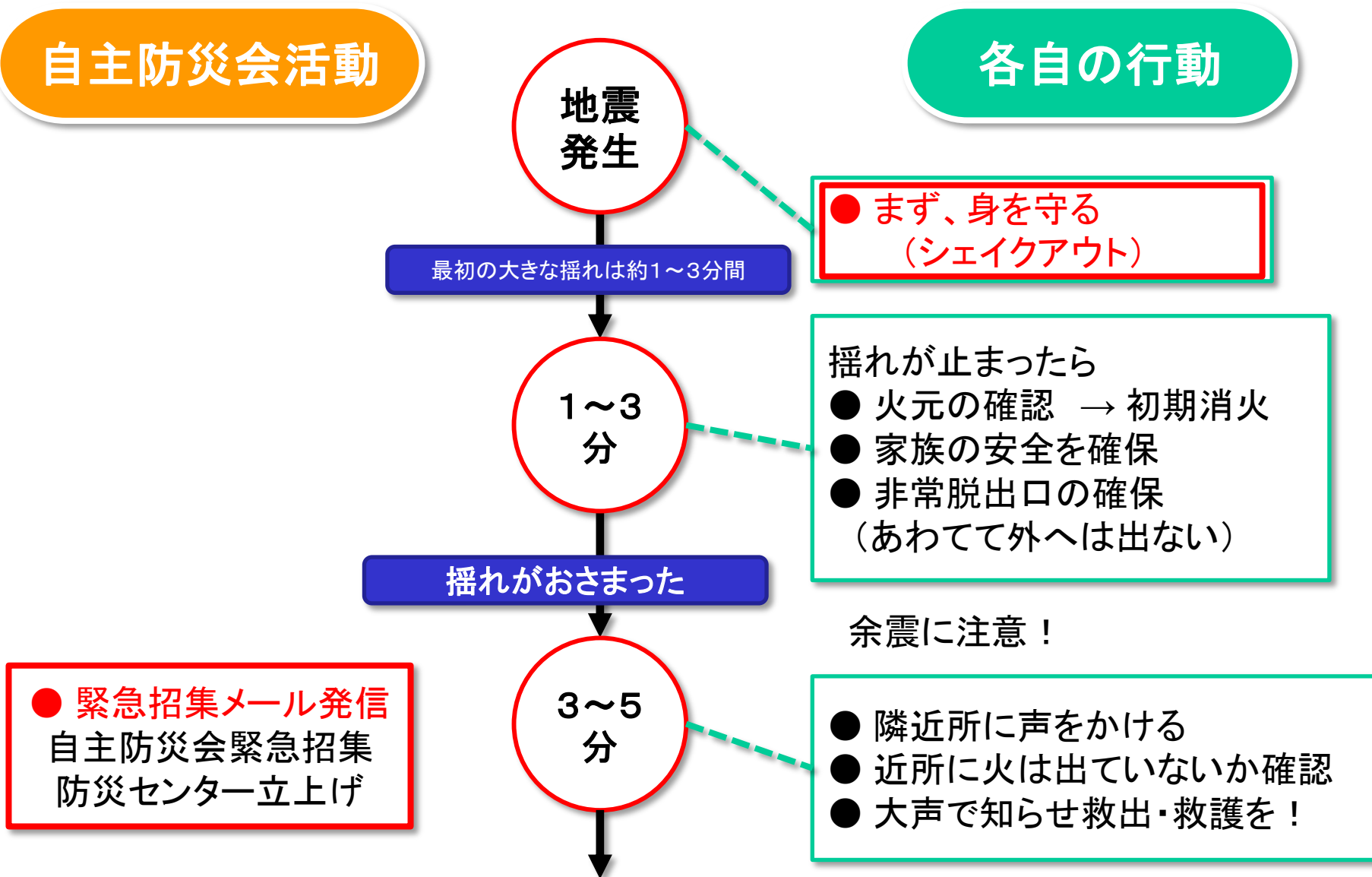
2013年度習志野市総合防災訓練での協力委員の活動



全戸配布の「安否確認プレート」

自主防災会活動

各自の行動





DROP!



COVER!



HOLD ON!



緊急時の対応(地震発生数分～3日間(共助))

自主防災会活動

- 防災ブロック(北・西・中央・南)
- 情報収集活動(安否確認・被害状況)
 - 初期消火・救出活動
 - 応急救護・搬送

協力委員

専門委員

役員・班長

- 防災センター(コミュニティーハウス):市地区対策支部と連携
- 全体情報収集⇒提供・連絡
 - 防災・減災活動全体指揮
 - 救護所・避難所設営運営協力

各自の行動

10分～
数時間

- 安否確認プレート掲示
- 自主防災活動に協力
- 火が天井に達したら屋外へ
- みんなで消火・救出活動

数時間
～3日

- 安否確認情報の入力・確認
- 自治会「防災ネット」の活用

- 水・食料は蓄えているものでまかなう

避難
生活

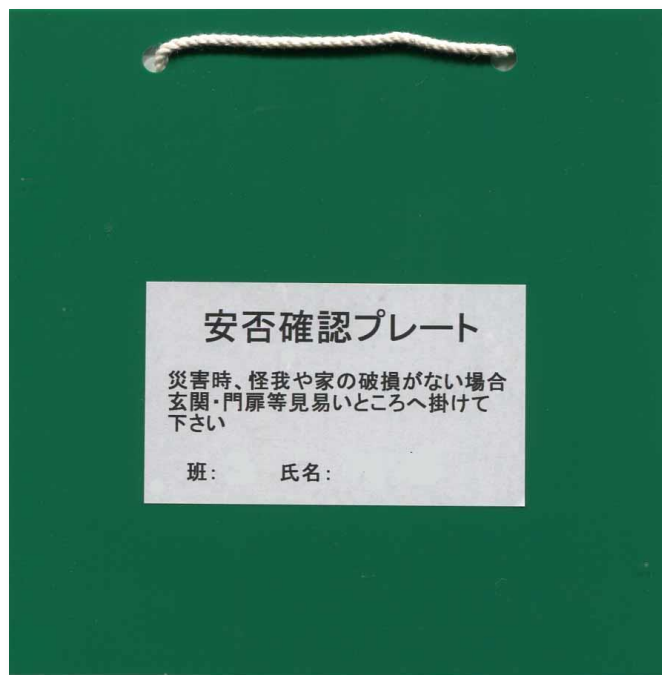
- 避難時はガスの元栓を閉める。電気のプラグを抜く。電気のブレーカーを落とす。

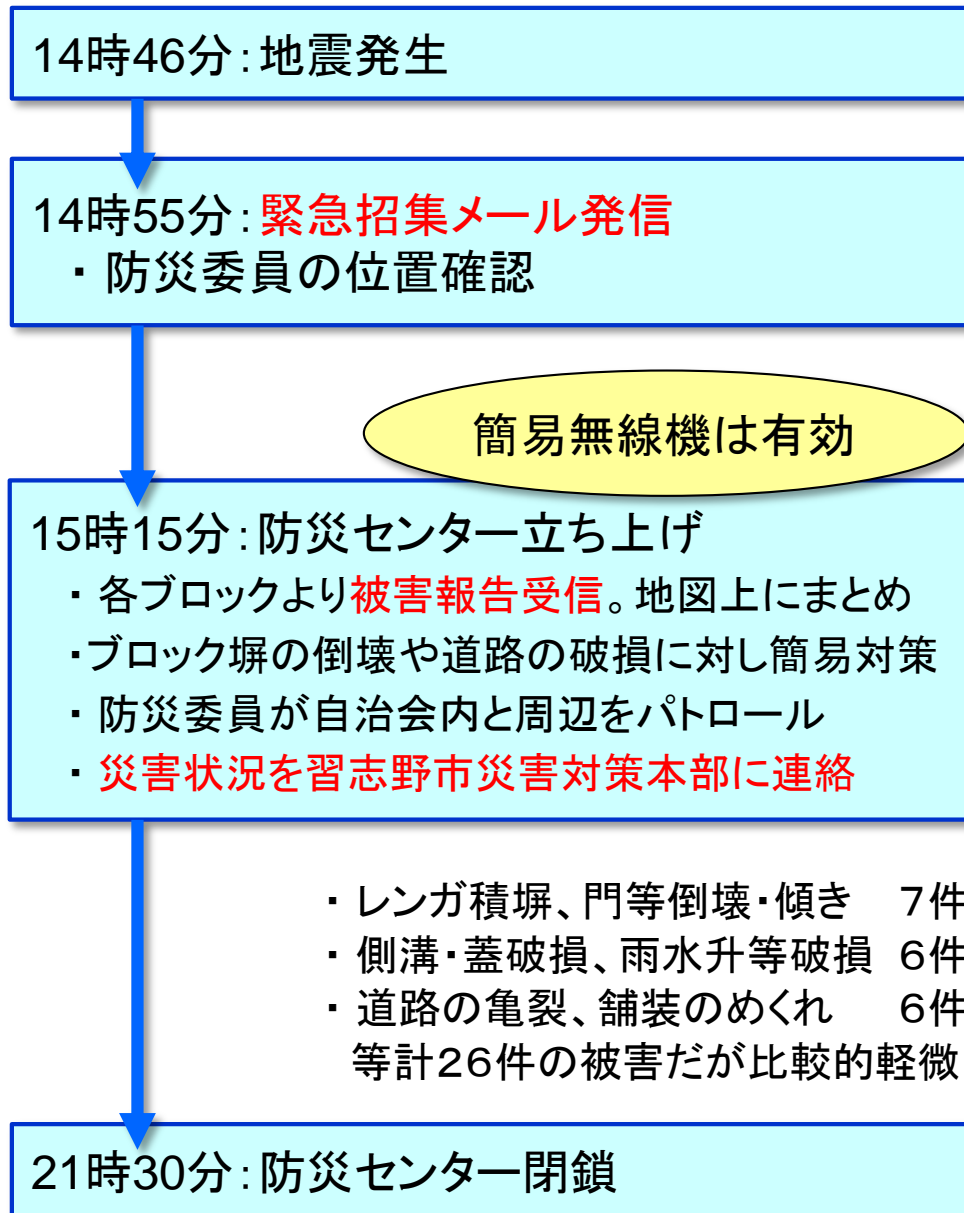
● 全戸配布済

- 玄関内側など、いつでも掲示できる場所に置いておく

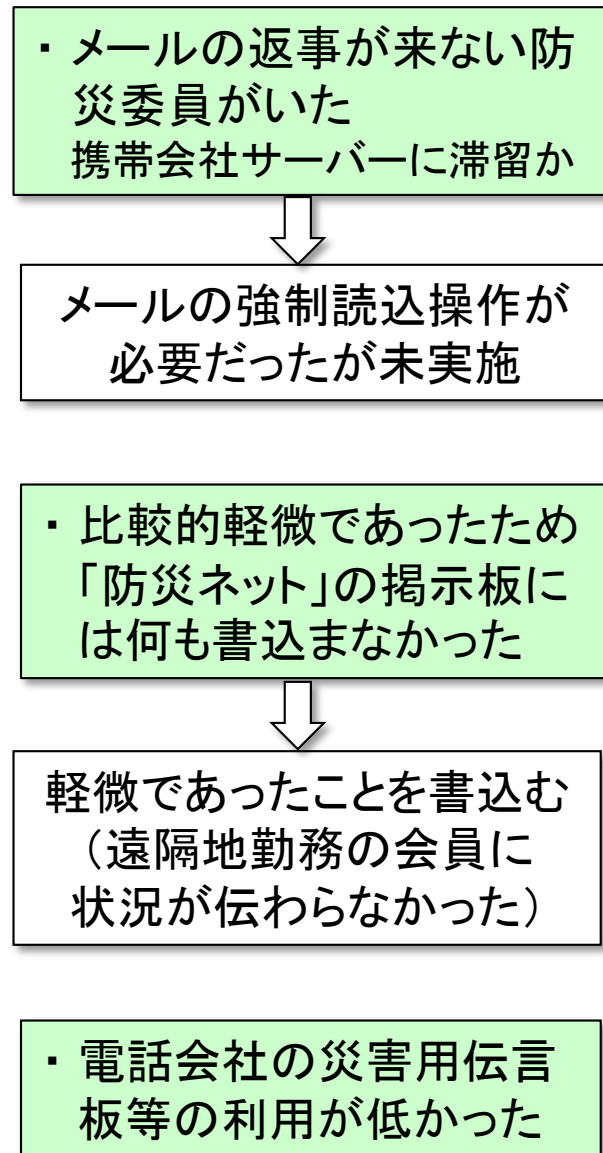
● 大きな災害時は、迷わず掲示

- 震度5強以上の地震時は、安全を確認できた住戸は門扉などに掲示
- ブロック担当の指示で班長等が全戸を確認し、トランシバーを使って短時間で防災センターに掲示情報を集約





課題



習志野市総合防災訓練 市内全域一斉 平成27・29年

習志野市全体スケジュール

本大久保ホームタウンの行動

9:00～
市防災
無線で
開始

1. 地域住民初動訓練
 - ・ シェイクアウト
 - ・ 火災予防措置
 - ・ 近隣安否確認

1. 初動訓練(全住民参加)
 - ・ 基本動作の徹底
(シェイクアウト～安否確認プレート)
 - ・ 防災委員緊急招集(メール)
 - ・ 防災センター立ち上げ
 - ・ 全戸の安否確認(班長、防災委員他)



10:00～

2. 避難所開設訓練
 - ・ 開設準備、入所受付
 - ・ 運営委員会設置
 - ・ 習志野市地区対策支部設置

2. 指定避難所(近隣小学校)へ避難
(4つのブロック毎に誘導)
 - ・ 簡易無線機により避難状況把握
 - ・ 被害・避難状況を地区対策支部へ
 - ・ 避難所開設に協力



10:30～

3. 避難所運営訓練
 - ・ 地域住民主導による運営
 - ・ 被災・被害状況把握
 - ・ 要援護者搜索
 - ・ 参加型防災訓練(避難所毎)

3. 避難所運営委員会として活動
 - ・ 4自治会合同で運営
 - ・ 防災訓練への全員参加
(給食、資機材使用、土のう作り)



12:00
終了

● 家庭での備え

- 消火器設置の呼びかけ
- 火災報知器設置の促進
- 基本動作の啓発
 - 火災発生後の基本動作の徹底
(ガスの栓を閉める等)
 - 通電火災防止の啓発
(避難時はブレーカー遮断等)



自治会で共同購入を実施



習志野市総合防災訓練で実践
【住民参加の自助訓練】

● 自主防災会による火災対策(初期消火)

- 13箇所のごみ集積所に消火器を設置
- スタンドパイプの購入と訓練
(排水栓・消火栓からの放水)
- 街かど消火ハリヤーの設置
(通常の水道栓利用)

スタンドパイプ



地域防災カルテでは
延焼率の高い地域

● 本大久保ホームタウンの集中豪雨による想定被害

既往最大雨量	観測雨量
習志野市 昭和56年10月5日	71.0mm/時間 南側浸水
参考;最近の記録 平成25年10月16日	44.5mm・時間 浸水被害なし

- ・ 周囲の土地より低地。南北に10mの高低差



● 内水氾濫対策

- ・ 意識の啓発: 13箇所のゴミ集積所に、海拔を表示
- ・ 基本動作の周知:
 - ・ 想定内予測時は家に留まる(必需品と2階へ)
 - ・ 想定を超える予測時は、情報周知徹底・避難

地域防災カルテでは浸水の可能性が高い地域



● 主要資機材・食料・飲料水・炊飯袋

● 場所別備蓄内容

防災センター (コミュニティハウス内)	懐中電灯、予備電池、紙食器、炊飯袋
第1防災倉庫 (コミュニティハウス敷地内)	発電機と燃料、緊急用照明、炊き出し用機材、担架、作業用資機材、車椅子、リヤカー、テント、救急セット、石油ストーブと燃料、簡易トイレとテント、食料品、飲料水等
第2防災倉庫 (本大久保保育所南緑道脇)	担架、作業用資機材、リヤカー、車椅子、簡易トイレ、救急セット、食料品、飲料水等 スタンドパイプセット、街かど消火ハリアー

● 食料・飲料水の備蓄方針

- ・ 緊急用として、全住民の2割(約240人)の2日分を備蓄(煮炊き用も含め)
- ・ 家庭での3日～1週間分の蓄えを基本とする
 - ・ なければ困るものを買置き(水・食料・日用品)
 - ・ 古い順から使って回転を

● 啓発と訓練 (自主防災会活動の柱)

啓発・訓練	主な内容	本年度の目標
防災講習会 年1回	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭での備えの徹底(自助) ・所属班とブロック体制の徹底(共助) ・災害別防災対策と対応基本動作 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災対策 ・集中豪雨(浸水)対策
防災IT講習会 年1回	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いITの活用啓発 ・「防災ネット」の解説と普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会HP整備 ・使い易い「防災ネット」
防災訓練 年1回	<ul style="list-style-type: none"> ・初期消火、救出・搬送、応急手当、心肺蘇生など 	<ul style="list-style-type: none"> ・市総合防災訓練に合わせて平素の訓練を実践
自主防災便り 年1回発行	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での備え(毎年基本を反復) ・本年度の目標に関する特集 	<ul style="list-style-type: none"> ・自助が基本を徹底 ・各家庭を訪問 備蓄品・数量の状況 世帯構成・支援の希望
特別啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・海拔表示板設置(ゴミ集積13箇所) 	

● その他の活動

災害時要配慮者に対して ➡ 民生児童委員と緊急時に連携

1. 退職者が中心の専任防災委員に対し、簡易無線機(トランシーバー)の取扱い方法や通話方法規則の徹底、携帯電話の緊急メーリングリスト活用までには長い訓練期間が必要であった。
2. 一戸建420戸を超える全自治会員に対して、災害発生時の行動指針や「安否確認プレート」の掲示、緊急用メールや掲示板の存在、自主防災会行動計画等の周知徹底の為に、防災啓発資料の配布、回覧板の反復実施、防災講習会開催、防災訓練実施など数多くの手段と回数を試みた。
3. 女性や多忙者の活躍の場として、協力委員制度を設置。日常的負担を減らしながらも、被災時に行動できるよう、意識付けと訓練を工夫した。



1. 簡易無線機や携帯電話/スマートフォンの活用、災害発生時の防災センター設置などITの活用と体制を整備することで、情報の収集・伝達のスピードと精度が飛躍的に高まり、被災状況の把握と対応指示が迅速かつ的確に行えるようになった。東日本大震災時にもこの機能は発揮された。
2. 災害発生時、直ちに自治会館内に防災センターを設置し、ITを活用することで、情報の集約と指示を効果的に行えるようになった。これにより、習志野市災害対策本部・地区対策支部への情報集約・伝達を迅速かつ確実に行う体制が確立できた。
3. 全自治会員に対して、「安否確認プレート」と防災対策資料の配布、防災講習会や防災訓練の実施、消火器や住宅用火災警報器の共同購入実施などを通し、自治会員の防災意識、自助・共助意識が向上し、その成果は防災訓練時にも発揮できるようになってきた。



課題

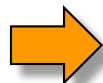
専任防災委員へのIT活用は浸透し始めたが、一般住民は知識レベルで留まっている例が多い「防災ネット」の使用率低い



停電時、防災センターに発電機を設置しているものの、携帯電話の電波が利用できることが前提のシステムとなっている



音声報告だけでは被災状況の把握に限界があり、結局現場へ行かなければならない



今後の取組み(計画)

一般住民の携帯電話/スマートフォンへの「防災ネット」URL登録の推進と登録システム等の工夫。継続的啓蒙活動実施。
わかり易い新システムの検討

Wi-Fi(無線インターネット)を活用した防災センター周辺の通信の確保。
スマートフォン/Wi-Fiデバイスの活用促進(携帯電話が使えない時)。
新規システムの検討

スマートフォンを活用した文字や写真の送受信システム導入の検討

受賞「ITを活用した実践的自主防災活動」

● 第18回 防災まちづくり大賞 総務大臣賞（消防庁）

- ・ 平成26年2月
- ・ 地方公共団体や自主防災組織等における防災や住宅防火に関する幅広い視点からの優れた工夫・アイデア等、効果的な取組を表彰



● 平成25年度 千葉県地域防災力向上知事表彰

- ・ 平成26年3月
- ・ 自主防災組織の防災活動や学校の防災教育などにおいて、長年にわたって他の模範となる活動や地域と連携した活動を行う団体を表彰

● 平成26年 防災功労者内閣総理大臣表彰

- ・ 平成26年9月
- ・ 災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象



● 習志野市制施行60周年記念市制功労者表彰

- ・ 平成26年11月

防災講習会で講演

- 習志野市防災講演会
- 埼玉県某市自治会連合会県外研修講演
- 茨城県某町区長会、某市市議会研修 他

ITの有効性は分かった！
けれどITの専門家がないので、出来ない

それなら、誰でもが使えるシステムを開発しよう！

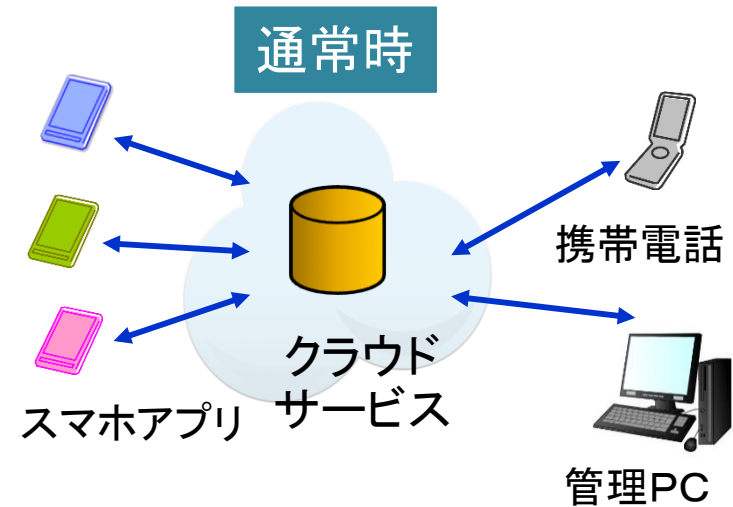
2015年	6月	仕様検討開始
2015年	11月	開発に着手
2016年	10月	試作版完成、危機管理展に出展
2016年	12月	開発者変更
2017年	2月	仕様を一部変更し、開発再スタート
2018年	2月	震災対策技術展へ出展
2018年	春	サービス開始へ

本大久保ホ
ームタウンの
ノウハウをす
べて盛り込む



「防災トーク」誕生！

- 本大久保ホームタウンの「防災ネット」と、自主防災会「緊急招集メール」の機能・ノウハウを凝縮
- 災害時の指示・連絡手段と情報共有のシステム
- 身近なスマートフォン・携帯電話で利用可
 - ・非常時でも持っている。停電時でも動く
- 難しい設定不要のクラウドサービス
- 自主防災組織(町内会、自治会)、マンション管理組合、企業内防災組織等で利用可
- 防災訓練に最適
 - ・指定日時に疑似緊急地震速報音の発生
- 被災時の回線ダウンで電波が使えない時、スマートフォン同士で直接Wi-Fi接続し通信確保



接続距離は最大200m
市街地では50～100m

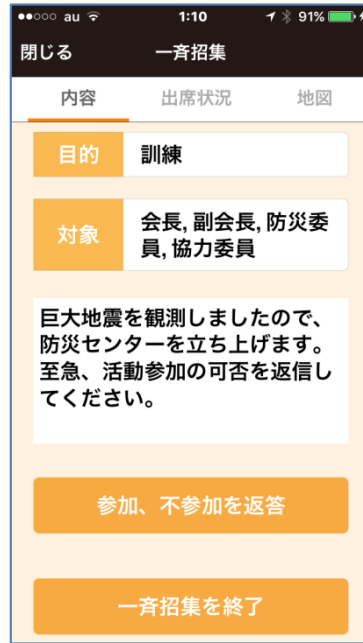


「防災トーク」の機能 -1 (防災委員向け)



スマートフォンの
防災委員向け
トップメニュー

● 「一斉連絡」・「招集状況」



防災委員に対し
緊急招集。
参加の可否を
応答(○△×)



対応可能戦力が
一覧でわかる



参加可能者は地
図上に現在位置
を表示



「防災トーク」の機能 -2 (防災委員向け)



スマートフォンの
防災委員向け
トップメニュー

● 「情報交換」



情報交換をするに
あたってのテーマ
を選ぶ



文章・画像・音声で
の送信を選択。文
章はOSの音声入
力機能で文字変換
可能



情報はスレッドで
まとめられ、同じ話
題を時系列で情報
交換できる

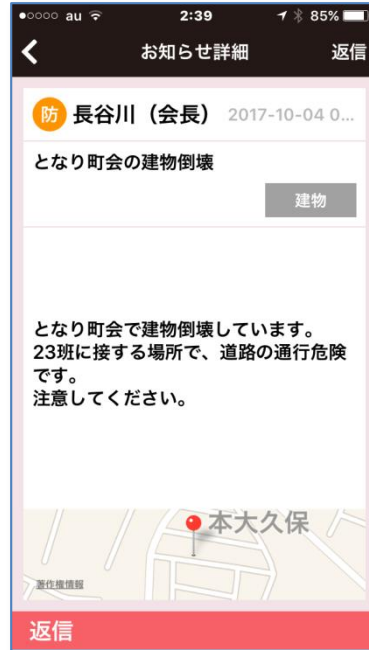


「防災トーク」の機能 -3 (一般住民向け)



スマートフォンの
一般住民向け
トップメニュー

● 「お知らせ」 ● 「助けて！」



防災組織で精査
したお知らせを住
民へ知らせる



助けが必要な時、
防災委員等の助
けを呼ぶ

- ・ 一般住民向けの機能
- ・ 「防災トーク」利用防災組織なら、住民誰でも利用可能



「防災トーク」の機能 -4 (防災委員・一般住民向け)



スマートフォンの
防災委員向け
トップメニュー

● 「被災マップ」 ● 「災害用伝言板」



避難経路を確保する
目的で近隣の被災
情報を知らせる
機能



携帯電話会社等が
災害時に開設する
災害用伝言板にリ
ンク。遠方安否確
認に利用

・「防災トーク」利
用防災組織なら、
住民誰でも利用
可能



「防災トーク」の機能 -5 (防災委員向け)



スマートフォンの
防災委員向け
トップメニュー

● 「直接接続」



接続可能者名簿から、
接続者を選択。
現在は同一OS間のみ



文章・画像(写真)・
音声で連絡可能

- ・被災時の回線ダウンで電波が使えない時、スマホ同士をWi-Fi接続
- ・接続距離は最大200m
市街地では50~100m





「防災トーク」まとめ

- 本大久保ホームタウン自治会自主防災会のノウハウ満載
- 専門知識・難しい設定不要で高齢者でも簡単に利用可能
- サーバー内に会員名簿を登録し簡単・安全に利用
- 期待導入効果

- 災害時において情報の収集・発信のスピードと精度の向上
- 訓練を通して防災組織の活性化・実践力強化

- 利用するには
 - ・ iPhone、Androidスマートフォンへアプリをダウンロード
 - ・ 携帯電話では一部の機能を提供
(一斉招集・応答、お知らせ、助けて！)
 - ・ 自主防災組織が有料契約すれば、一般住民は無料
 - ・ NCCコンサルティング株式会社から提供



- ・ ITの活用で、情報の収集・伝達のスピードと精度が飛躍的に高まり、情報の集約と指示を効果的に行えるようになった
- ・ しかし、ITは手段であり、これを活用するためには、**組織・体制の構築と、実践的な訓練、啓発・普及活動を通じての防災委員をはじめ、全住民の意識向上が欠かせない**

課題は少なくない。今後とも工夫を重ね、より実践的な取り組みを進めて、安心して暮らせる街づくりを目指したい

